

平成16年 3 月期決算

補足資料

東海旅客鉄道株式会社

本資料中の将来の予想は、現時点において入手可能な情報及び計画に基づき作成したものであり、実際の業績等は今後の経済情勢等によって予想数値と異なる場合があります。

平成15年10月のサービス改善

【輸送面】

- ・ 東海道新幹線品川駅の開業（東京圏でのアクセスポイントの増設）
- ・ 700系及び300系への統一による全列車の270km/h運転化
- ・ 「のぞみ」主体ダイヤへの転換
- ・ 山陽区間への直通「のぞみ」の増発（時間あたり本数：1本 2～4本）
- ・ 「のぞみ」への自由席の設定（1列車あたり3両）
- ・ 「ひかり」停車本数の増加（例 浜松、豊橋：+10本、小田原、三島：+6本）
- ・ 早朝・夜間時間帯の「ひかり」「こだま」の増発
- ・ 「のぞみ」「ひかり」と在来線特急列車との接続改善

【販売面】

- ・ 「のぞみ」指定席特急料金の値下げ（約10%）
- ・ 新幹線回数券の設定（従来の「のぞみ指定席特急回数券」を値下げ）
- ・ 新設した「のぞみ」自由席の、「ひかり」「こだま」と同一水準での料金設定
- ・ 「e特急券」の利便性向上（自由席以下の価格設定、受取専用機の設置等）
- ・ 「ひかり早特」きっぷの新設
- ・ ご利用の少ない回数券、新しいダイヤで役割を終えた商品の廃止
- ・ 「JR東海50+（フィフティ・プラス）」の発足

【その他】

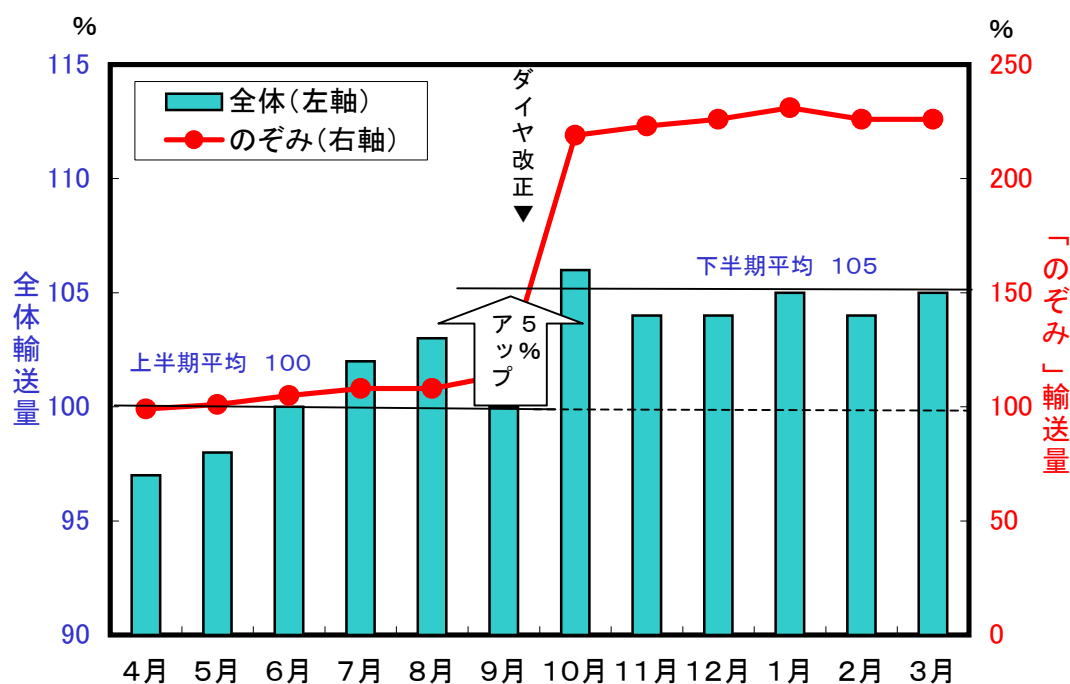
- ・ 旅客案内情報設備のリニューアル

東海道新幹線のご利用状況(1)

ダイヤ改正後の東海道新幹線全体の断面輸送量は、前年同期比で105%と、上半期に比べて5%程度シフトアップ。

特に「のぞみ」の下半期のご利用は前年同期比225%と、設定した輸送力の水準(188%)を上回り、「のぞみ」利用が順調に推移。

平成15年度断面輸送量の推移(前年同月比)



(注)「のぞみ」「ひかり」：小田原～静岡間
「こだま」：新横浜～小田原間

輸送力・輸送量の実績(15年度下半期前年同期比)

	輸送力(%)	輸送量(%)
のぞみ	188	225
ひかり	52	45
のぞみ+ひかり	102	108
こだま	102	96
合計	102	105

輸送量及び輸送力は全て一日平均の数値を基に算出

東海道新幹線のご利用状況（２）

品川駅の開業

- ・ 東京南西部のお客様の東海道新幹線へのアクセスの利便性向上
- ・ 今後の輸送力増強のために必要となる最も重要な輸送基盤の整備
- ・ 災害等によりダイヤが乱れた場合の正常ダイヤへの早期復旧が可能

品川駅のご利用状況（15年度下半期の1日平均乗降人員）

	H14(万人)	H15(万人)	前年同期比(%)
品川駅	—	4.2	—
東京駅	20.3	17.4	86
合計	20.3	21.6	106(1.3万人増)

（注）今回特別に集計した数値であり、例年公表している乗車人員とは異なる。

「ひかり」停車本数の増加

- ・ 一部の駅で、ご利用状況に合わせ「ひかり」の停車本数を増加
- ・ 「ひかり」が停車する時間帯をバランス良く見直し

「ひかり」停車駅のご利用状況（15年度下半期）

	停車本数（本）	前年同期比(%)
小田原	12(+6)	104
三島	12(+6)	100
浜松	26(+10)	103
豊橋	16(+10)	101

（注）停車本数は、定期列車、上下計の数値。括弧内はダイヤ改正前後の増減
前年同期比は、今回特別に集計した数値に基づき算出している。

○ 山陽区間への直通「のぞみ」の増発

- ・ 東海道・山陽区間を直通する「のぞみ」を倍増（毎時2～4本へ）
- ・ 東海道・山陽区間を直通されるご利用人員も増加

営業施策の展開

○ エクスプレス予約

IT技術の活用により、東海道新幹線のきっぷの予約から受取までの手続きに要する時間の大幅な短縮とともに、最も有利な価格でのご利用を実現

【サービス内容】

- ・予約: 駅に行かずに、携帯電話等により予約を完了
- ・変更: 受取前であれば、携帯電話等で予約の変更が何度でも可能
- ・受取: 改札付近のエクスプレス予約受取専用機等で待たずにきっぷを受取
- ・価格: 普通車指定席の価格は、繁忙期も含め、自由席以下

【ご利用実績】

- ・カード会員数: 16年3月末時点で22万人 (前期末比 約2倍)
- ・取扱件数 : 16年3月(平日)で14千件/日(前年同月比 約6倍)

【更なる利用促進策】

- ・今年3月よりクレジットブランド付きの「JR東海エクスプレスカード」の発行を開始
(参考: 今年4月から、駅窓口等における一般クレジットカードの取扱いも開始)

○ JR東海 50+(フィフティ・プラス)

当社エリア内をはじめとする歴史的・文化的史跡等の観光素材を活用し、新たな観光需要を創出

【概要】

- ・ 50歳以上の方を対象とした会員制の旅クラブ
- ・ 入会金・会費は無料
- ・ 旬の旅情報とオリジナル・ツアーのご案内を満載した会員誌を送付
- ・ 会員専用のオリジナル・ツアーに、ご家族や知人と参加が可能

【会員数】

- ・ 3月末現在において、10万人の目標に対し19万人が登録済み

平成16年度の運輸収入見通しと設備投資計画

1 運輸収入の見通し(単体)

- ・ 上期:新幹線のダイヤ改正効果等により、約40億円の増収を見込む。
- ・ 下期:ダイヤ改正効果は一巡するが、営業施策などにより前年並みを維持。
(うるう年の反動分は減収)

	H15(実績)	H16(見込み)	差引
上期	5,290	5,334	43
下期	5,343	5,314	△ 29
合計	10,633	10,648	14

2 主な施策と設備投資計画

(1) 「平成16年度 重点施策と関連設備投資について」

- ・ 別添資料参照(平成16年3月26日に公表済み)

(2) 設備投資額

- ・ 単体:1,410億円(平成15年度実績:1,555億円)
- ・ 連結:1,595億円(平成15年度実績:1,732億円)

(3) 東海道新幹線輸送力増強投資

- ・ 平成2年度より、品川駅新設、電源増強及び車両の増備など、総額4,300億円の計画で、設備投資を推進。
- ・ 計画の中心をなす品川駅を含め平成15年度までの総投資額は約2,850億円。
- ・ 今後、15本化に向けて必要となる設備投資については、需要動向に合わせて、電源増強、車両増備等を適宜、実施。

平成16年度 重点施策と関連設備投資について

1. 『安全・安定輸送の確保』

鉄道事業の原点である安全・安定輸送の確保・向上に引き続き万全を期します。

- (1) 東海道新幹線と一部在来線駅部分における高架橋柱の耐震補強等、地震対策を促進
- (2) 在来線盛土補強・落石対策等の防災対策、踏切保安設備の改良
- (3) 在来線駅構内電子連動化、CTC・PRC装置の更新



新幹線電気軌道総合試験車「ドクターイエロー」



新幹線高架橋柱の耐震補強

(設備投資額：540億円)

- (1) 東海道新幹線全線にわたる高架橋柱の耐震補強
約7,200本
平成20年度末の完了目途
- (3) 平成16年度
電子連動化 2箇所
CTC・PRC装置更新(御殿場線)

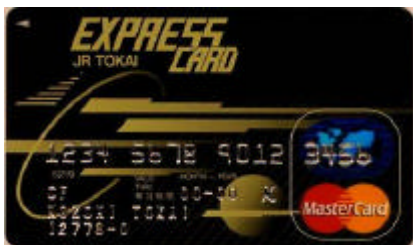
2. 『東海道新幹線の更なるサービスの向上』

昨年10月、飛躍的に向上した輸送サービスの定着化に努めるとともに、更なる輸送力の増強を図り、一層の輸送サービスレベルの向上を実現します。

- (1) 昨年10月スタートの新ダイヤを基本として、お客様のニーズにあわせたタイムリーな臨時列車等の運行により、適正な輸送力を提供
- (2) 「2005年日本国際博覧会」及びご利用の集中する朝夕のピーク時間帯等に対応するため、「のぞみ」輸送力を増強。そのために必要となる車両の新製等を実施
- (3) 駅窓口でのクレジットカード取扱い拡大や「エクスプレス予約」サービスの一層の充実により、販売面におけるサービスを向上
- (4) 50歳以上のお客様を対象とした旅クラブ「JR東海50+(フィフティ・プラス)」等を中心に、新たな観光需要を創出

(設備投資額：270億円)

- (2) 700系車両6編成新製



JR東海エクスプレス・カード



JR東海50+ 宣伝ポスター

3. 『次世代の新幹線への取組み』

新幹線の更なる躍進をめざし、以下の取組みを実施します。

- (1) 新ATCの平成17年度導入に向け、地上設備改良・車両改造工事を実施
- (2) 700系の後継となる次世代車両(N700)の量産先行試作車の新製及び走行試験に向けた準備を実施
- (3) 研究施設(小牧)において、「高速鉄道技術のブラッシュアップ」と「新しい分野への挑戦」を柱とした技術開発を推進

(設備投資額：220億円)



N700先頭車両イメージ



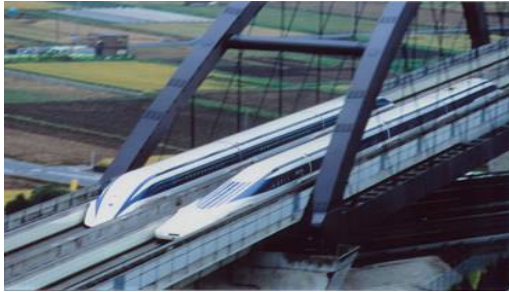
車両運動総合シミュレーター

4. 『リニア技術開発の推進』

山梨リニア実験線において、引き続き超電導磁気浮上式鉄道（リニア）の技術の完成度を高めるための開発を進めます。

（設備投資額：10億円）

- （1）実用化の基盤技術の確立に向け、走行試験等を着実に実施
- （2）「2005年日本国際博覧会」において「JR東海 超電導リニア館」を出展し、リニア技術の先進性と完成度の高さをアピール



山梨リニア実験線



JR東海 超電導リニア館

5. 『地域プロジェクトへの積極的対応』

中部地区におけるプロジェクトへの積極的対応により、地域への貢献を果たします。

（設備投資額：10億円）

- （1）「しずおか国際園芸博覧会（浜名湖花博）」（H16.4）にあわせ、橋上駅化した舞阪駅等を活用した輸送サービスの充実
- （2）「西名古屋港線（あおなみ線）」の開業（H16.10）に伴い、名古屋駅の改良を実施
- （3）「中部国際空港」開港（H17.2）に向けて、金山駅における乗継円滑化を実現
- （4）「2005年日本国際博覧会」開催（H17.3）にあわせ、名古屋駅と愛知環状鉄道八草駅との直通運転を実施



浜名湖花博へのアクセス拠点となる舞阪駅



西名古屋港線改札口（名古屋駅）

6. 『駅設備等の整備』

鉄道をより快適にご利用いただくため、駅設備等を整備します。

（設備投資額：110億円）

- （1）駅設備の改良、高架化等の推進
- （2）バリアフリー設備を整備

エレベーター、エスカレーターの整備

在来線のホーム段差の解消

多機能トイレ等の整備

在来線車両に車いすスペース、車いす対応トイレの整備

(1) 駅改良：新横浜、藤枝
高架化：蒲郡、勝川、八田

(2)
EV：8 駅18基（東京、名古屋、岐阜羽島、新大阪、沼津、岡崎、瑞浪、八田）
ESC：6 駅13基（東京、名古屋、岐阜羽島、金山、瑞浪、八田）
6 駅（名古屋、近江長岡、武並、身延、下曾我、高蔵寺）
トイレ：3 駅（名古屋、岡崎、瑞浪）
特急：平成16年度未完了予定
通勤：平成17年度未完了予定



車いすスペース



車いす対応トイレ

7. 『事業展開の推進等』

更なる事業展開を図るため、社宅跡地における事業開発、駅ビル開発等を進めます。

- (1) 新たな大規模開発計画が進む名古屋駅地区においては、名古屋駅における商業施設等のリニューアルを実施
- (2) 名古屋・静岡地区の社宅跡地を活用し、商業施設等の開発を推進
- (3) JR東海新横浜駅ビル(仮称)の設計を進めるなど開発計画を深度化



名古屋駅広小路口商業施設リニューアル



JR東海新横浜駅ビル(仮称)

8. 『業務遂行の改善等』

- (1) 機械化・システム化等による業務のスピードアップ
保守作業の機械化
事務業務のシステム化
- (2) JR東海品川ビルの完成及びJR東海病院の建設等

JR東海品川ビルの完成により、グループ会社を含めた本社等業務機能を集約

JR東海総合病院について、最新技術を取り込んだ高度先進医療を提供できる新たな病院の建設を推進

社宅集約による大規模用地の生み出し



新幹線新方式道床更换用保守用車



JR東海病院

(設備投資額：30億円)

- (1) 名古屋駅広小路口商業施設
平成16年4月リニューアルオープン
- (2) 事業主体はジェイアール東海不動産㈱
静岡
(石田・南八幡社宅跡地開発)
平成17年秋開業予定
核テナント：エー
名古屋
(高見社宅跡地開発)
ジェイアール東海不動産㈱、
三菱地所㈱、三菱商事㈱
の共同事業
- (3) 平成20年度開業予定

(設備投資額：150億円)

- (2) 平成16年5月移転完了予定
平成18年開院予定

平成16年度設備投資総額
1,410億円
(対前年計画比81%)